



2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	一般社団法人クラブCoCo		活動タイトル	子育てママの孤立化を防ぐ母子の居場所づくり				
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景					
●地域の望ましい社会状況（ビジョン）	<p>当団体が考える地域社会の活性化は、まず子どもたちが元気でいられる社会であり、そのためには母親が元気でいられることが必要であるとする。</p> <p>子育て世代の母親が悩みをひとりで抱え込まず、同じ悩みをもつ母親どうしの交流のなかで助け合うとともに、多世代の交流を行なうことで、子育てや暮らしのノウハウが継承し、子どもを中心としたコミュニティが形成されることが理想である。</p> <p>こうした繋がりのおかげで母子の孤立を防ぎ、交流のなかで皆が参加する居場所において、それぞれが自信をもって生きていける社会をつくっていききたい。</p>		サロン、利用者が製作中の写真。					
●団体の社会的役割（ミッション）	<p>当団体の社会的な役割は、次世代を担う子どもたちの健全な成長のために支援や活動の場の提供を行い地域社会に貢献していくことであり、そのために以下のような取組を行っていく。</p> <p>1) 子育ての緊急支援として、子どもの一時預かり、病児保育、送迎などを行うほか、育児に係わる悩み相談や母親の交流の場の提供を行う。</p> <p>2) 子どもたちや親子の活動の場として地域スポーツクラブの運営を行うほか、子育て中の母親のストレス解消につながる託児付きイベントの開催などの活動を行う。</p>							
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：会計や社会保険事務などを行う常駐スタッフ1～2名が在籍し、それを補うための各種専門家などのプロボノ人材との連携をおこない。組織体制の充実をはかり安定的な運営を行っていく。 ●望ましい物的資源：事務所と兼用して、家庭的でつろげるスペースを確保でき、イベントスペースなどを備えた人が集まりやすい施設を確保する。 ●望ましい活動資金：自主事業における収益力を高めるとともに、寄付や法人会費の確保、クラウドファンディングの活動など、借入れに頼らない資金の確保につとめる。 ●望ましい情報：当団体の理念を明確にし、各構成員や支援者に対して共通認識がもてるようにする。また、組織的な動きがとれるよう中間リーダーの設置や業務のマニュアル化を行う。 							
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)					
<p>・サロンの実施</p> <p>利用者のニーズに応じて、親子で楽しむ工作や母親のみが集中して取り組む製作、利用者みんなと一緒に歌ったり踊ったりするものなど、様々な企画を実施することができた。母親が楽しむもの、親子で楽しむものをバランスよく実施することで、母親のストレス軽減に向けた取り組みを行った。</p> <p>・母子の居場所づくり</p> <p>コロナ禍を経て、より孤立化した育児に悩む保護者が多いことを感じる。当施設が育児に悩む保護者の心の拠り所となるよう、夏頃に引越しし居場所として利用できる施設を確保できた。</p> <p>サロンの後に自由に過ごせるお話タイムも設けた。</p> <p>・スタッフの勉強会、活動調査</p> <p>外部講師を招いて傾聴やカウンセリングの講習を受けた。また、宝達志水町にある応援サポートハウス「おばちゃんち」を視察した。</p>			<p>・サロンの実施</p> <p>毎回多数の応募があった。参加した保護者から日頃の子育ての悩みを同じ境遇の保護者と話すことですっきりした、等、リフレッシュになったという意見が多く、満足度が高いことがわかった。</p> <p>・母子の居場所づくり</p> <p>利用者が過ごしやすく快適に過ごせるスペースを確保することができた。サロンに開催していない日にも気軽に立ち寄って話をしていく保護者が増えた。母親とスタッフの信頼関係も築けてきた。</p> <p>・スタッフの勉強会、視察</p> <p>外部講師を招き、カウンセリングや傾聴の技術を学んだ。スタッフのコミュニケーションスキルをあげて、保護者同志を繋ぐ役割を担いたい。</p> <p>視察では、地域の居場所としての施設の在り方を学んだ。ありのままの姿を受け止める大切さ、子どもの言葉を受け止め傾聴すること、四季に触れられる豊かな自然体験の大切さなど、取り入れられることを参考にしていきたい。</p>			母子の居場所づくりの写真。拠点となる場所でのお母さんとの面談風景。		
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題					
<p>引越後の施設は、イベントスペースを備えた、人が集まりやすい施設になっているため、環境や時間に融通が効き、利用者にゆっくり過ごしてもらおうことができるようになった。サロン後に、持参したお弁当を食べて帰ってもらったり、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中子育ての相談に乗るなど、子どもや利用者のペースに合わせた利用や時間を気にしない自由度の高い、ニーズに応じた利用をしてもらうことができるようになった。</p>			<p>・サロンの開催が地域に根付く必要がある。幅広い告知、本当に支援を必要としている人に届くような内容と方法を考える。当施設の利用者は口コミが多いので、利用者の繋がりを活用し、情報を広めていく。SNSも利用して、幅広く当施設の存在を周知していきたい。</p> <p>・子育てで孤立する家庭など、困っている保護者がどの程度いるかを把握し更にニーズに応えるため、行政と連携していきたい。孤立化した保護者が子育てに悩み、孤独な育児から虐待等を行い子どもに被害が行く前に親子を救えるよう、親子の居場所づくり、母親の人間関係の構築の一助となる施設でありたい。</p> <p>・スタッフのスキルアップを目的に、外部講師を招いて学習会を開催したり、それぞれ研修会に参加するなど、親子それぞれが安心して居心地よく利用してもらえるよう、研鑽に努める。</p>			この1年間の活動を通じて	居場所の拠点の確保	を達成しました。
			<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>・ストレスを軽減できる企画を多くできた。利用者は自分の為の時間を楽しむ様子が見られた。笑顔が増えた。</p> <p>・参加当初は口数が少なかった保護者も、参加回数を重ねることを通じて、口数も増え、笑顔が見られるようになった。</p>					